

議事録（概要）

会 議 名	令和7年度第2回地域包括ケア推進委員会					
会 場	芦屋町役場3階31会議室					
日 時	令和8年1月14日（水） 9：55～11：35					
委員の出欠	委員長	中村 貴志	出	委員	倉成 孝英	欠
	副委員長	真田 憲一	出	委員	福原 光次	出
	委員	櫻井 俊弘	出	委員	山田 寛	出
	委員	岳藤 さおり	出	委員	原田 孝恵	出
	委員	駒山 博人	出	委員	川上 誠一	出
	委員	白石 英也	出	委員	松岡 泉	出
	委員	竹野 香代子	出			
件名・議事	議事 1 第10期芦屋町高齢者福祉計画の策定について 2 高齢者福祉計画策定に向けた住民アンケートの実施について 3 高齢者福祉計画策定に向けた団体ヒアリングの実施について 4 その他					
合意事項 決定事項	1 第10期芦屋町高齢者福祉計画の策定について ・報告、了承された。 2 高齢者福祉計画策定に向けた住民アンケートの実施について ・報告、了承された。（修正については、委員長及び事務局一任。） 3 高齢者福祉計画策定に向けた団体ヒアリングの実施について ・報告、了承された。（修正については、委員長及び事務局一任。）					

令和7年度第2回地域包括ケア推進委員会 議事録

○日時

令和8年1月14日(水)9:55～11:35

○場所

芦屋町役場3階 31 会議室

○協議事項

- 1 第10期芦屋町高齢者福祉計画の策定について
- 2 高齢者福祉計画策定に向けた住民アンケートの実施について
- 3 高齢者福祉計画策定に向けた団体ヒアリングの実施について
- 4 その他

議事1 第10期芦屋町高齢者福祉計画の策定について

●事務局から【資料1】に基づき説明。

(委員長)

・策定の方針については、従来の基本的な考え方によると思うが、今年度から認知症関連が少し入ってきている。

議事2 高齢者福祉計画策定に向けた住民アンケートの実施について

●事務局から【資料2】に基づき説明。

(委員)

・第10期の計画を策定する上で注視する項目を確認したい。
・内容は福岡県や他自治体のアンケートの情報を基に作られているようにうかがえるが、町として吸い上げたい内容のすり合わせが、業者と上手くできているのかどうかを確認したい。

(事務局)

・市町村認知症施策推進計画では、「認知症になってもどんなことをしたいか」等を聞いた上で計画するよう方針が出ており、問38で認知症になっても「し続けたいこと」を自由記載で書いていただき、本人が認知症になってもしたいことを尋ねたいというのが、今回のアンケートの目的となっている。業者とすり合わせを十分に行い、認知症のことについても入れている。前回の計画との経年比較も見て、満足度がどのように上がっているのか、それが上がっていなければどこに今後力を入れなくてはいけないのかということも含め、広がり大きい形での作成になっている。

(委員)

・認知症に関して、問 31 で認知症の診断がついたかで分かれるが、一番問題なのはそれを本人が理解しているかどうかである。おそらくこれを明らかに峻別するのは難しいと思うので、問 35「あなたは、どのような症状で困ることがありますか」と聞かれて、認知症の方がこの辺りのことを回答できるのは本当に軽症の方、ある程度判断ができる方なので、ここに持ってくるよりは、高齢者の方が気になっていることを把握するためにも、問 31 の前に問 35 の内容を尋ねた方がよいのではないかと思う。

・問 37「あなたは、芦屋町で生活していく中で、自立、かつ、安心して暮らすために必要だと思うことは何ですか」は、認知症の方が答えられるのか。

・問 38 は先ほどの話では、ここでいろいろな問題点を拾い上げたいということだったが、問 31 で認知症ではない、軽度の認知症ではない方は問 38 に飛ぶ。そこで「あなたがこれからもしたいこと、し続けたいことはありますか」と聞かれて、何を答えられるのだろうかと思う。認知症に関わった話をここで聞きたいということだろうと思うので、この文章では何も答えられないのではないか。認知症に関わるようなことで何かしたいことがあるかという問いだと思ふため、設問の文章を考えた方がよいのではないか。

・問 14「かかりつけ医」という言葉が出てきており、補足説明がしてあるが、この「かかりつけ医」という概念を理解されている方がどの程度いらっしゃるのかが非常に疑問である。「複数の医療機関を受診されているかどうか」がわかった方がよいと思うが、そういう設問がない。「日常的に診療を受けているところがありますか」という設問もぜひ入れていただきたいと思う。

・問 16「あなたが、治療が難しい、または治る見込みがない病気と診断されたと仮定した場合、最期まで自宅で療養することは可能だと思いますか」で「2. 不可能だと思う」と回答した方は、問 16-1「なぜ不可能だと思うのか教えてください」で選択肢をいずれか 1 つ選ぶことになっているが、1 つでない方がたくさんいらっしゃる。これは 1 つにしなければならない理由が何かあるのか。もし理由がないのであれば複数回答でもよいのではないか。

(事務局)

・いただいた意見について、再度検討を行う。

・問 16 について、理由は特にないため、複数回答でも問題ない回答だと考える。

(委員)

・問 19「あなたは ACP やエンディングノートという言葉を知っていますか」という設問があるが、これはやはり必要なことであり、私自身も関心を持っている。この設問での回答を把握して、今後の町の施策としてどのように活用していくのか。

(事務局)

・ここでは「知っている」「知らない」を尋ね、「知らない」と言われたら、これから重要になってくると思うため周知に力を入れる。そうなったときに講演会等が必要になればそ

れを進めていく等、まず「知っている」「知らない」で町の施策のスタートラインを決めようと思っている。

(委員)

・問 15「通院する際の移動手段は何ですか」について、設問が受診することを前提とした設問になっている。現在自宅で往診・訪問診療を受けている方の把握も必要なのではないかと思った。

(委員)

・問 37 の選択肢には「その他」の項目がなく、限られた選択肢だけになっているのが気になる。人それぞれの考え方がたくさんあると思うので、いろいろな声が拾えるように「その他」の項目があってもよいと思った。

・問 38 については、「認知症になっても、し続けたいこと」という理解でいいのか。

(事務局)

- ・問 37 について、再度検討を行う。
- ・問 38 について、お見込みのとおりである。

(委員)

・問 31 の前に、認知症であると思われる項目を列挙していただけると非常に回答しやすい。その中で、「日常の中でこういうことがあれば認知症になり得るのではないか」ということを選定するという形にしてもらえればよいと思った。

・問 15-1「通院にかかる毎月の交通費負担」だが、芦屋の場合、少し田舎に行くと車がないと生活できない、買い物も困るところがあるので、費用をみようとするのであれば、ガソリン代が月いくらとした方が回答しやすいと思う。

・問 17「治療が難しい、または治る見込みがない病気と診断されたと仮定した場合、どこで療養することを希望しますか」については、唐突に最期まで自宅にいたいかといわれても、アパートの狭い所だと家族に迷惑がかかるからということが出てくる場合もあるため、「住宅が戸建てなのかアパートなのか」を尋ねてもらえたらと思う。

・問 29「現在、働いて収入を得ていますか」という前に、「働いているかどうか」をまず聞いてほしいと思う。そうすれば、高齢者がどれだけ働いているのが把握できるのではないか。

(委員)

・認知症の方に配布されても結局家族が回答することになると思った。もう少し高齢者に寄り添った形でわかりやすく、家族ぐるみで回答できるようなアンケートの内容にするとよいと思う。

(事務局)

・おっしゃる通りだとは思いますが、意見を聞きながら手伝ってもらってアンケートに回答していただく、それが町の施策にもつながるという意味ではそれもありだと思います。簡単な内容にしてしまい過ぎると、計画につながるアンケートにはならないということもある。訪問して意見を聞くことも重要で、地域包括支援センターが自宅訪問することもあるため、その辺で意見を吸い上げながら町の施策につなげていきたいと思う。

(委員)

・アンケート調査をすることが目的とするのではなく、その結果をどうするかということだが、広く1,500人の方を抽出して実施されるということなので、アンケートのやり方としてはいろいろな意見が反映されてくるのだろうなど。その中で埋もれた内容、アンケートでは出てこない内容、そういうところの抽出、分析や検討をされるのか。数字だけで何人回答しました、何%でしたという結果だけではなく、埋もれている意見、この裏には何かがあるのではないかと、いうところまでの分析まで含めて、ぜひ取り組んでいただきたい。

(事務局)

・分析について説明をさせていただきたい。当然、単純集計だけ、問いに対して「はい」「いいえ」が何%という、入り口としてはその点ももちろん提示させていただく。経年比較として、前回はこれだけで、今回は上がっていた、悪くなっていたという分析。問1～4で「あなた自身のことについて」をお尋ねしている。年齢、性別、居住校区、世帯構成という項目についてはクロス集計という手法があり、単純に1つの設問に対し、「はい」「いいえ」、全体で何%というものと別に、男性・女性はそれぞれ何%、年代別、居住地域別ではこういう回答の割合、世帯構成によって回答状況はこのようになっていますというところまで提示させていただく。例えば、先ほど防災の問41-1「災害などで避難するとき、自宅の近くに手助けを頼める人がいますか」という設問があるが、おそらく、回答の結果は「1.同居の家族」「2.別居の子どもなど、親族」「3.近所の人、友人・知人」に集中し、その他の回答が少ないという結果が出ると思う。全体の割合としてはそうなるが、問1～4のクロス集計をしたときに、一人暮らし世帯の場合、当然一人暮らしなので「1.同居の家族」という回答はないという結果になり、それ以外の回答になると思う。そのときに、「8.助けを求める相手はいない」という回答の割合が高ければ、そこの対策は考えなければならないということになる。そのような形で、町の施策検討の材料となるような分析を行いたいと考えている。

議事3 高齢者福祉計画策定に向けた団体ヒアリングの実施について

●事務局から【資料3】に基づき説明。

(委員)

・表題に「ヒアリングシート」と記載があるが、ヒアリングというのはインタビューも含めて対面で行うことが普通だと思うが、これは文書による調査になるので、そのように記載された方がよいのではないかと。「ヒアリングシート」というと聞くための材料だと勘違い

されるのではないか。

(委員長)

・先ほどの住民アンケートではWEBを使うということだったが、団体のアンケートは記述式が多いという説明があった。記述式の場合、修正しやすいように打ち込みたくなるのではないかと思うが、その辺りはどうなのかと思った。これは敢えて書面でのアンケートの方がよいということなのか。

(事務局)

・ヒアリングシートということで郵送での実施を考えているが、実際おっしゃる通り、WEB回答も可能ではある。お忙しい中回答をしていただくということもあり、再度検討を行う。

(委員)

・団体が高齢者支援活動としてどういうことをやっていますかという設問があるが、団体に入って一緒に活動していることや会員を増やそうとしていること自体が福祉活動だと思っている。問3で「活動を行う上での課題や問題点」の設問があるが、一番大きな課題は、「加入者が減少を続けている」ということ。加入者を増やすためにどうしたらよいかについていろいろ検討しており、行政の皆さんとも対策について話し合っていかなければならないと思う。

(委員)

・「高齢化」が団体の問題である。本当に人材不足で、十分に活動ができないという状況であり、募集をかけているが、一向に増える兆しはない。他の団体と同じように、町の方に協力を求めて行けるような状況をつくっていただけたらよいと思う。

(委員)

・後継者が不足し、民生委員がいない地区もある状況である。若手の参加が社会情勢上難しいということも理解できるが、団体の活動も根本的にそこがあつての活動だと思う。自治会加入率が芦屋町では全国からするとかなり少ないという結果が出ているが、ある程度大きな町は自治会に入っていないいろいろなサービスが受けられないという制限があると聞いている。そういうところは強制的に入る。それがよいということではないが、何かしら良いアイデアがないかなと思う。

(委員長)

・住民アンケート及び団体ヒアリング調査について、事務局と私と業者で最終的なとりまとめをさせていただきたいが、ご一任いただけるか。

(委員)

・異議なし。

議事4 その他

(事務局)

- ・住民アンケート及び団体ヒアリング調査については、2月実施予定。次回の会議については、6月頃開催予定。

以上